

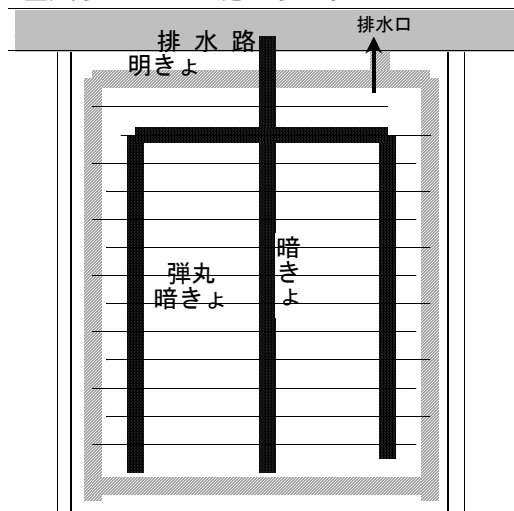
排水対策・丁寧な碎土が収量・品質向上の決め手！ ～ 目指せ！品質2等以上 単収240kg ～

1 排水対策

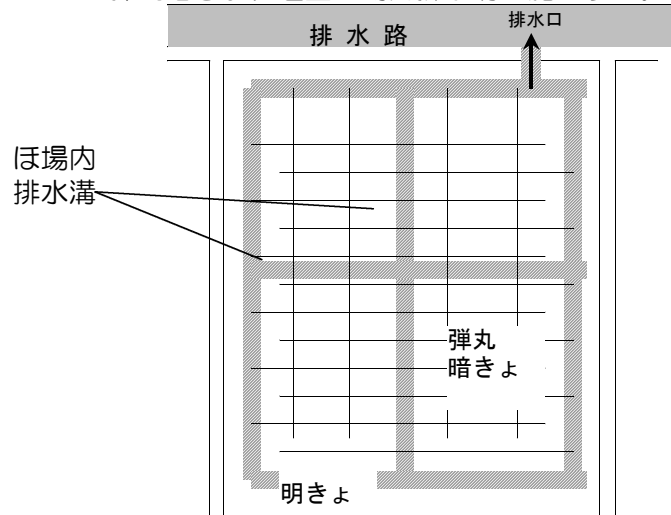
- 暗きよや排水溝の早期実施が碎土率の向上に効果的です。
- 排水対策に畦立て播種は非常に有効です。さらに、暗きよや排水溝と組み合わせると一層効果的です。

- (1) 弾丸暗きよ：深さ30～40cm程度、間隔4m（透水の悪い重粘土壌は2～3m）で本暗きよと直行させる方向に施工する。
- (2) 周囲明きよ：溝幅20～30cm、深さ30～40cmで施工する。
- (3) ほ場内排水溝：周囲明きよと同規模の溝を、ほ場の区画や透水性により適宜施工し、周囲明きよと連結させます（6～10m間隔に施工）。

本暗きよが効く場合、弾丸暗きよは直交するように施工する。



本暗きよがない（効かない）ほ場は、縦横に弾丸暗きよ、適宜ほ場内排水溝を施工する。



2 施肥

大豆の施肥は全量基肥が基本。必要に応じて窒素分を追肥する。
石灰分は土壌酸度の矯正だけでなく、Ca補給効果もあるため必ず施用する。

- (1) 酸度 (pH) 矯正：消石灰 100kg/10a （MG30など生石灰 70kg/10a）
- (2) 基肥のめやす（10a当たり；窒素1.5～2.5kg、リン酸6～8kg、加里6～8kg）

肥料名	施用量 (kg/10a)	成分量 (kg/10a)			備考
		N	P	K	
大豆用450	40～50	1.6～2.0	6.0～7.5	8.0～10.0	
ニュー大豆800	20～30	1.6～2.4	4.0～6.0	6.0～9.0	
ワンタッチ大豆	40	7.6	6.0	6.4	追肥窒素成分含む

※地力の低下した長期連作ほ場では、基肥の有機物施用（窒素成分2～4kg/10a程度）や、ワンタッチ大豆施用（基肥時又は培土時）が有効です。

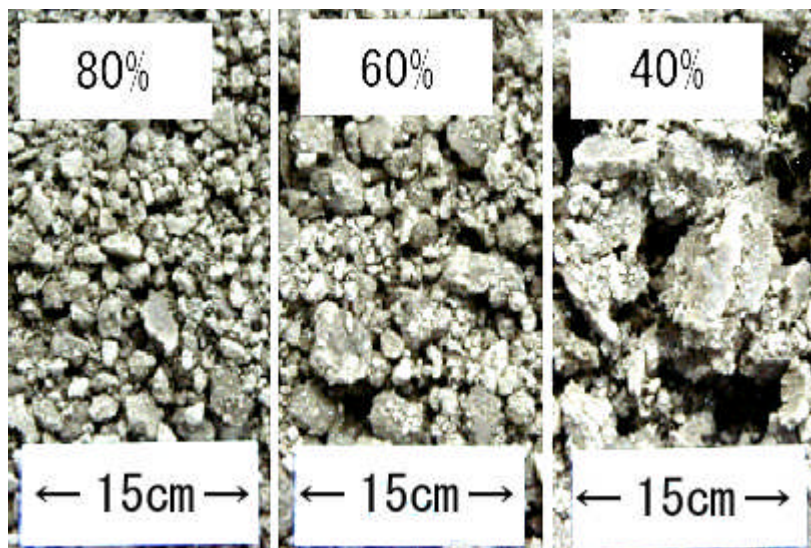
3 耕起・整地

○発芽率を高め、発芽を揃えるため、ほ場が良く乾燥した状態でゆっくり丁寧に耕耘する。

○砕土率70%以上（2cm以下の土塊の占める割合70%以上）を目標にする。

※砕土が粗すぎると、出芽が不揃いになります。一方細かすぎても降雨があった場合に地表に「盤」ができて、発芽が阻害される。

※耕起と播種は同日に実施するのが望ましい。



「砕土率のめやす」

4 播種

(1) 種子の準備

採種ほ産種子を使用し、必ず種子消毒を行う。

(2) 播種時期

5月25日～6月15日頃の間が適期（播種は5月25日以前には行わない）

※3作以上連作のほ場では、5月20日頃から播種が可能

※栽培面積を考慮し、収穫時期などが重ならないように必要に応じて播種時期を分散させる。

(3) 播種密度

播種時期	目標苗立株数	畦幅	株間	種子必要量
5月下旬 ～6月上旬	10,000株 /10a	75cm	13cm	4kg/10a

注) 株間は1株1粒まきの場合、種子量は大粒を基本とした予想使用量

○干ばつ対策（除草対策）

①播種深度目標…3cm程度、②砕土率…70%以上、③覆土後鎮圧の徹底がポイントです。

5 除草

播種後直ちの除草剤散布と早めの中耕・培土で生育前半の雑草発生を抑える

○除草剤散布は播種後直ちに行い、大豆発芽前に終了する。

○散布直後に降雨が予想されるときは、除草剤散布を避ける。

※除草剤散布に当たっては使用登録内容を確認し、周辺ほ場の農作物に飛散しないよう十分注意する。

◆ お知らせ ◆

「巻普及センターテレホンサービス」放送中！

今年も4～8月まで期間 技術情報を提供します

電話：0256-72-0948 終日お聴きいただけます